町家を事例とした住宅の庭と建物の平面配置構成についてのブロック表記

八代研究室
00412154　小端　吾郎

1. はじめに

現在の日本の一般住宅では南庭の事例が多く見られるが、都市化し狭小な敷地になってきているいま、本当に必要な庭はどういったものなのかを、中国における中庭の表記法を参考に、伝統的日本の民家である町家を対象に住宅の庭と建物の平面配置構成について検討する。

２．分析対象・方法

『日本の民家　町家 / 第５-７巻』から表１に示す５１件を対象に庭別９ブロックを作成する。

中国の住宅では、北方系と南方系の平面配置構成を９つのブロックで庭と建物を表記する方法がある（図１右上）。この表記法をもとに、図１に４段階の庭別９ブロックの作成方法を示す。はじめに、本稿で使用する各住宅の平面図を□庭（外部）、■建物（内部）、■ 土間（中間領域）の３種類に色別し分別する。次に、色別した図面を簡略化し「住宅ブロック表記」に置き換える。最後に、庭ごとに細分し「庭別９ブロック表記」を作成する。

庭別９ブロックは、図２に示すように建物開口面数（ｘ）と建物ブロック数（ｙ）によって全４１タイプに表記できる。図２の各ブロック下の数値は５１件

表１　分析対象 ＊１）

No	住宅名称	建築年代	所在地	日本の民家
1	吉島家	1907年	岐阜県	5（北海道・東北・関東・中部）
2	日下部	1879年	岐阜県	
3	小野家	1850年	長野県	
4	真山家	1786年	長野県	
5	旧小諸本陣	18世紀末	長野県	
6	堀田家	18世紀中頃	愛知県	
7	旧東松山家	1901年	愛知県	
8	石倉家	19世紀初	福井県	
9	旧松下家	19世紀中頃	石川県	
10	喜多家	19世紀中頃	石川県	
11	渡辺家	1788年	新潟県	
12	旧生方家	17世紀末	群馬県	
13	大沢家	1792年	埼玉県	
14	旧中村家	1861年	岩手県	
15	高橋家	1763年	青森県	
16	太刀川家	1900年	北海道	
17	旧中村家	1888年	北海道	
18	旧鈴木家	19世紀前半	福島県	
19	旧三沢家	1842年	長野県	
20	今西家	1650年	奈良県	6（近畿）
21	高木家	19世紀前半	奈良県	
22	旧米谷家	18世紀中頃	奈良県	
23	中橋家	18世紀後半	奈良県	
24	豊田家	1662年	奈良県	
25	河合家	18世紀後半	奈良県	
26	中村家	1632年	奈良県	
27	大角家	17世紀末	滋賀県	
28	角屋	18世紀後半	京都府	
29	小川家	18世紀末	京都府	
30	旧緒方家	1842年	大阪府	
31	旧柳川家	1807年	和歌山県	
32	旧谷山家	1749年	和歌山県	
33	中島家	1902年	京都府	
34	本居旧宅	18世紀後半	三重県	
35	大橋家	1796年	岡山県	7（中国・四国・九州）
36	旧大原家	19世紀初	岡山県	
37	石井家	18世紀後半	岡山県	
38	高草家	19世紀初	岡山県	
39	後藤家	19世紀初	鳥取県	
40	木幡家	1733年	島根県	
41	木原家	1665年	広島県	
42	林家	17世紀末	広島県	
43	能谷家	1768年	山口県	
44	菊屋家	17世紀中頃	山口県	
45	目加田家	19世紀前半	山口県	
46	国森家	18世紀後半	山口県	
47	松延家	19世紀中頃	福岡県	
48	旧宮良殿内	1819年	沖縄県	
49	北原旧宅	19世紀中頃	福岡県	
50	福沢旧宅	19世紀前半	大分県	
51	大隈旧宅	19世紀前半	滋賀県	

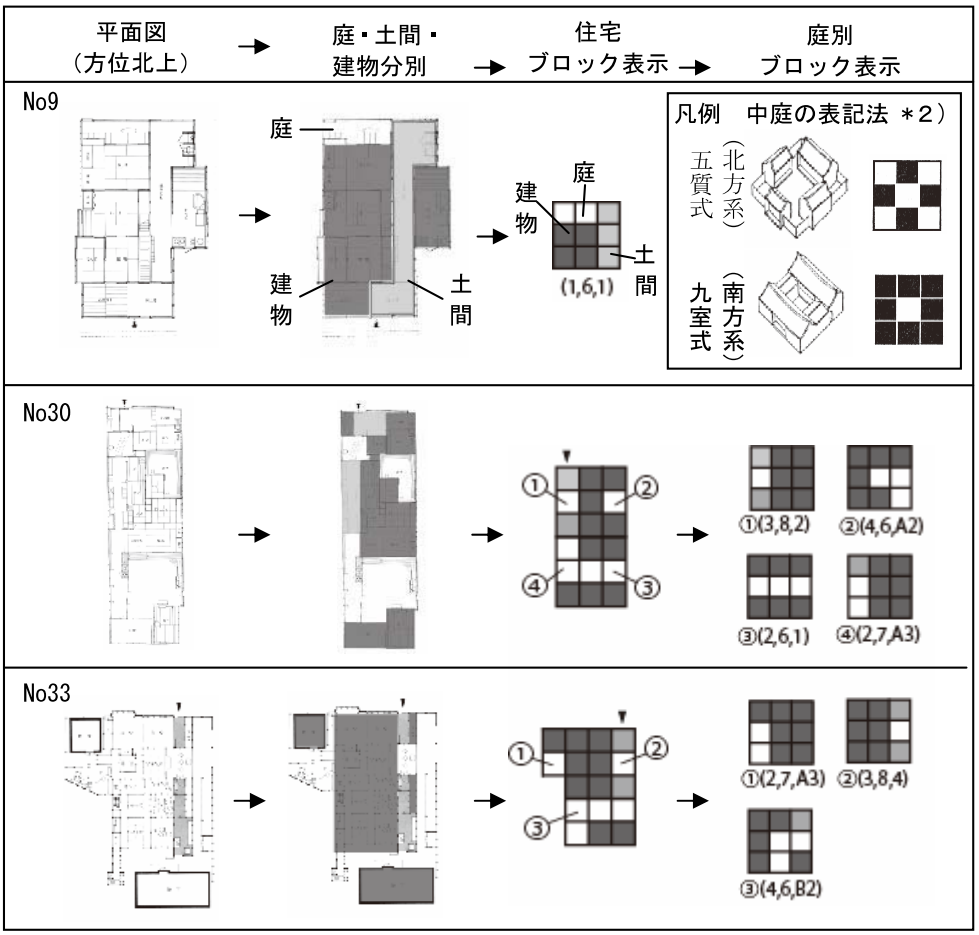


図１　庭別９ブロックの作成方法

Block notation for floor planning of garden and house exemplified by machiya

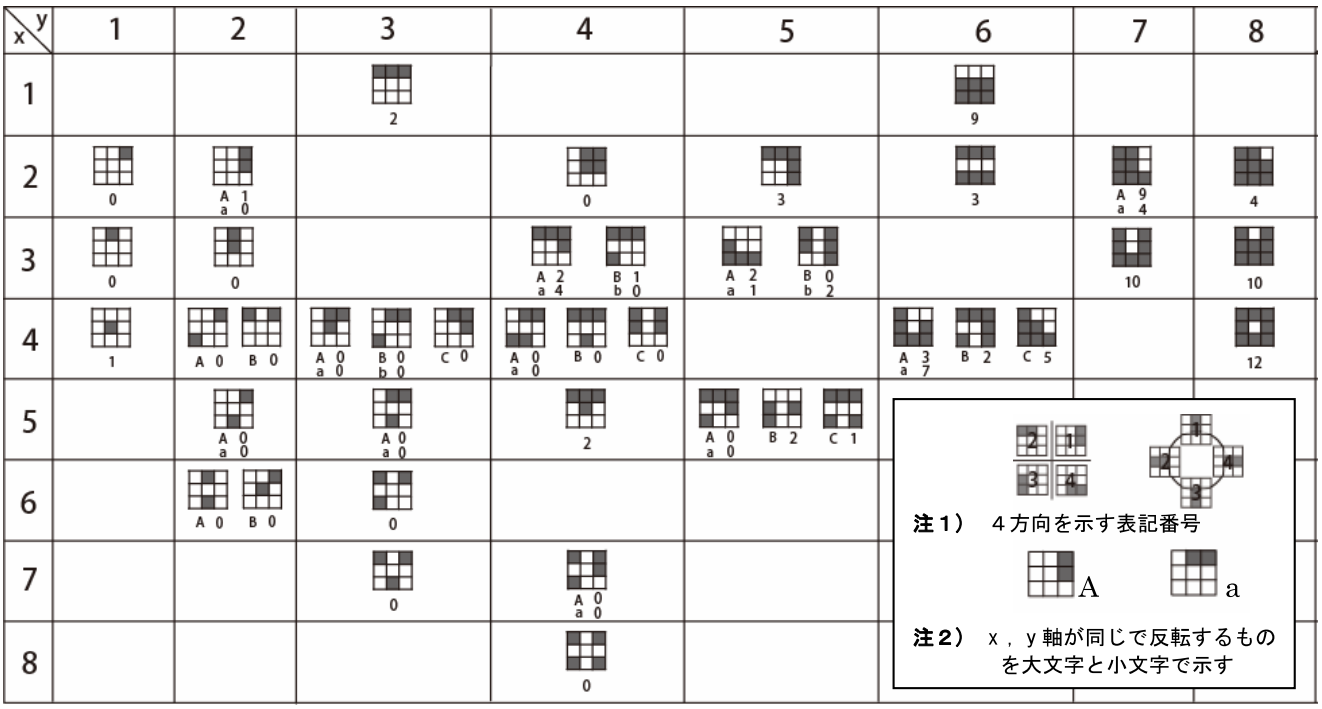


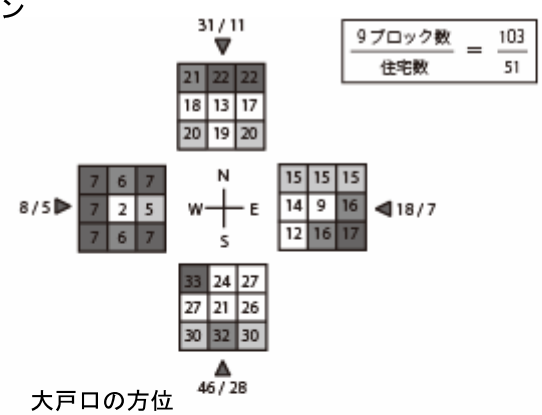
図２　建物の開口面数（ｘ）と建物ブロック数（ｙ）のパターン

の集計数を示した。ただし、右下の注に示すように１つの庭別９ブロックで、４方位と反転による最大４×２の計８タイプを含む。

図３は、庭別９ブロックを用いて大戸口の方位、建築年代、地域に分け、建物を１、庭を０、土間は０．５として加算し、分布の濃淡を表記した。分析の結果、図３-１からは大戸口の位置とは反対側に庭が多く分布していることが分かった例えば、南面に大戸口が位置する場合、北側に庭が多く見られる。図３－２からははっきりとした特徴は見られなかった。図３－３からは北の地域ほど北側に、南の地域では南側に庭が多く分布していることが分かった。中国の平面配置構成では北方系と南方系の２つの型式に顕著に分かれているが、日本の町屋の平面配置構成では様々な方位に偏在していることが理解できた。

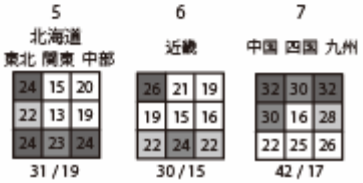
３．まとめ

本稿では、中国の中庭の表記法を参考に、日本の町家を事例として、庭と建物の平面配置構成を９つのブロックでタイプ化し分析した結果、中国のようなはっきりとした傾向は見られず、様々な方位に庭が偏在していることが理解できた。



３－１　大戸口の方位

３－２　建築年代



３－３　地域

図３　庭別９ブロック表示による庭の位置についての分析

【参考文献】
1）鈴木充『日本の民家』町家 第５－７巻　学習研究所　1981
2）掘込憲二　郭中端:『中国人のまちづくり』相模選書 1980
3）藤本四八 中村昌生『京の町家』駸々堂出版 1971
4）『重要文化財住宅修理工事報告書』
例．奈良県文化財保存事務所『重要文化財今西家住宅修理工事報告書』共同印刷工業株式会社　1962